

自己評価報告書

平成23年 4月 1日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520175

研究課題名（和文） 日本および周辺地域に波及した祝穆編書の版本研究 建陽坊刻類書の伝播に関する考察

研究課題名（英文） A Study of Jian yang Commercial Printed Editions of Encyclopedias Edited by Zhu mu which Profited Early Japanese and its Neighbors.

研究代表者

住吉 朋彦（SUMIYOSHI TOMOHIKO）

慶應義塾大学・斯道文庫・准教授

研究者番号：80327668

研究分野：書誌学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：版本学・祝穆・類書・建陽・坊刻本・古活字本・和刻本

1. 研究計画の概要

本計画では、日本の中世から近世にかけ、漢学者に支持され重用された、宋の祝穆編集の書物を取り上げ、その伝本に書誌調査を加え、版種の整理と、版本個々の受容について明らかにし、日本や周辺地域において発揮された、その文化史的意義を明らかにする。

2. 研究の進捗状況

祝穆の編書には『事文類聚』『方輿勝覽』『全芳備祖』『群書一覽』の4種が知られるが、その伝本の残存を見る限り、主として前2者が、日本や東アジアによく伝わって影響を及ぼした。そこで本研究は、『事文類聚』と『方輿勝覽』の2者を対象として、伝本書誌調査を突破口とし文化事象の分析を試みている。

本研究の方法は、伝本調査の結果を踏まえ、まず版種の異同が必ずしも明らかでない同名書を比較して異同を定め、次に版種間の本文を対査することによって、異本間の関係を明らかにし、本文伝播の基礎情報を得る。さらに個々の伝本の来歴、受容の様子を検出し、受容者の学問を追体験することによって、版本の伝流が他地域に与えた文化的効用を明らかにしようとするものである。

『事文類聚』については、元明諸版の調査を一通り行った結果、朝鮮半島の高麗から朝鮮前期、日本中世では元泰定3年刊本の影響が大きいことを確かめ、写真を取得し研究の礎に据えた。また朝鮮潮流布の甲辰字刊本と、日本近世の古活字本、和刻本に調査を加え、明代諸本が合成され、後出諸版を生み出した実態を闡明した。

『方輿勝覽』については、宋元版の調査を行い、宋代版本の伝来はごく僅かで、日本中世では専ら〔元初〕刊本の行われた実態を検

出した。この本は宋末咸淳3年に序を附し刊行された本文であるが、その原本ではなく覆刻本であり、中国社会の実情が変化中、元の時代に平行し、宋末の文化を追っていた様子が知られる。

上記のように、現在まで3年間の調査を経て、書誌学研究に基づく版本伝播の把握について、一定の推論を構築し得る地点まで進んで来た。今後はその地域文化との接触、影響の質量について、文化史的把握に努めなければならない。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

書誌学的な伝本の調査は、調査対象が中国大陸に散在するため、その網羅は困難を極めるが、現在までに推論を覆す伝本が見出されなくなるまでには、比較検討を重ねることができた。当初計画の終了まで、今少しの例証の確認と増補、文化史的把握を深化させる補足研究の時間的余地を残している。

4. 今後の研究の推進方策

まず版本整理を精密に行い、諸版の関係が一覧し得る周到な版本目録を編集する。その上で、伝本に纏わる諸事象に文献資料を併せてその把握を深め、文化史的意義を提起する伝本解題を記述し、研究を総括する。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

住吉朋彦, 『千家詩選』と『新選集』 周防国清寺旧蔵本をめぐる, 『斯道文庫論集』

査読無,第45輯, 2011, p.99-138

〔学会発表〕(計1件)

住吉朋彦,『千家詩選』と『新選集』 周
防国清寺旧蔵本をめぐって,第62回日本中
国学会学術大会,2010年10月9日,広島大学

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕特になし